

静岡新聞

夕刊
1月27日(水)

〒422-8033 静岡市駿河区登呂3-1-1
静岡新聞社
電話(054)282-1111
月決め2,900円(本体2,695円) 消費税215円
1部50円(消費税込み)
静岡新聞社2016
浜松総局 浜松市中区旭町11-1
電話(053)455-3355
東部総局 沼津市魚町1
電話(055)962-0380

公益財団法人
SBS静岡健康増進センター

人間ドック
女性健診
特定健診
一般健診
脳ドック
PETがん健診

静岡市駿河区登呂3-1-1
TEL 054-282-1109
URL http://sbs-smc.or.jp/
申し込み専用TEL 0800-200-4466

「めぐるリア」
3歳男児死
ゆったりフ
米中外相、
小説

裁判勝っても保障なく



親が離婚した未成年の子は全国で22万人を超えている(2014年、厚生労働省調べ)。別居する親子が定期的に会う「面会交流」は11年に改正した民法で初めて明文化され、子の利益を最優先に協議するように促しているが、14年の日本弁護士連合会(日弁連)調査では、子と別居している親の4割が面会でできていないことが明らかになった。親子がなぜ会えないのか。課題を追った。

「わが子に会いたいの」
離婚と面会交流

40代、仮名IIは、街で家族連れを見るのがつらい。元妻が離婚前に実家に連れ帰ったまま、2年間会えずにいる小学生の息子を思い出すからだ。「なぜ自分だけこうなってしまったんだろ」と息子と会話をしたのは、離婚調停中の「面会交流」が最後だった。肌寒い日、待ち合わせ場所の公園の入り口に15分前に着き、「会わない間に嫌われていないかな」とときどきしながら待った。心配を

よそに、息子は「パパ!」と全力で駆け寄ってきた。鬼ごっこやボール投げといったいつもの遊びに、息子は歓声を上げた。幸二さんは同居中に風呂で遊んだことや、送迎をした車内でのたわいもない会話を思い出し、胸が熱くなった。

1

静岡家裁に面会交流を求める調停を起こしたが、不成立になった。審判に移行して「月に1回、市内で2時間程度面会をする」と念願の決定を受けたが、元妻は不服として東京高裁に抗告。高裁が棄却すると、さらに特別抗告をした。高裁は退け、幸二さんの勝訴が確定した。それでも元妻は、息子を会わせようとしていない。

「息子の思い出の品もなくなってしまう」と語る幸二さん(昨年12月)

金銭を求める間接強制という手段がある。しかし幸二さんには、元妻に送った養育費の一部が「罰金」名目で返ってくるだけに思える。「裁判に勝ち続けても、願いはかなわない。仕事を休んで法廷闘争に時間を費やす間、息子は成長していつか自立する」と

養育費を自分に変更するよう請求することもできるが、幸二さんは転校など息子の負担を考えるとためらってしまっている。「面会交流」が離婚時の協議事項として改正民法に明文化され、夫婦的感情的な対立とは別に、子の視点から検討するよう求めた意義は大きい。しかし、別居する親子が会える保障はない。幸二さんのように裁判を通じて取り決めても、守れない親への強制力はなく、課題は残ったままだ。面会交流問題に詳しい馬場陽弁護士(名古屋大学法学部非常勤講師)は「現状では子どもの利益を守れない」と警鐘を鳴らす。

忘れられるのが怖くて、幸二さんは昨秋、息子の運動会に行った。一瞬目が合った息子に顔を背けられ、「嫌われている」と感じた。愛情を直接伝えるチャンスがないまま、年が離れた。「打つ手なし」の絶望的な状況は疲弊を招き、最近では「面会を諦めれば、自分が前に進むことができると」安んじ始めた。

Q 面会交流 面会交流は過去に面接交渉と呼ばれ、50年以上の歴史がある。基本的には両親間の協議に任されているが、協議離婚ではなく裁判所での調停や審判、訴訟では、面会交流について具体的な頻度や場所を決めることが多い。厚労省によると、現在、親権は8割が母親であり、離別親は圧倒的に父親が多い。2014年、県内の離婚件数は6400件。離婚件数は減少傾向にある一方、静岡家裁によると、面会交流を求める調停の申立件数は県内で3400件で、10年前の倍以上だった。増加の背景には、男性の育児に対する意識の高まりがあるといわれる。

こころ女性編集室

Women's CHOICE



サッカー男子五

イラク破り6!

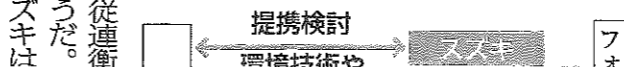
【ドーハ共同】サッカー男子のリオデジャネイロ五輪最終予選を兼ねたU-23(23歳以下)アジア選手権で日本代表は26日、カタールのドーハで行われた準決勝でイラク代表に2-1で競り勝ち、3位以内が確定して6大会連続10度目の五輪出場を決めた。原川力選手(川崎)が決勝ゴールを挙げた。

▽関連記事3、7面へ
日本は前半、久保裕也選手(ヤングボーイ)が先制したが追いつけず、後半は5連勝でリタした。30日の決勝は韓国と対戦する。

トヨタ自動車とスズキが、提携に向けた検討を始めたことが27日、分かった。自動車運転に関わる安全関連技術や、環境対応車の開発といった分野での連携を視野に入れる。スズキが強みを持つインドなど新興国の小型車展開でも協力していく見通しだ。両社が株式を持ち合う可能性もある。

▽関連記事6面へ

自動車メーカーの主な提携関係



スズキ、トヨタ

安全、環境